

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-122	高等学校	商業科	ソフトウェア活用 新訂版	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	190-910	ソフトウェア活用 新訂版		

## 1. 編修の基本方針

編修にさいしては、教育基本法に定める「第一章 教育の目的及び理念」を参照し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う教育を推進することを基本方針として、本文の著述を心がけた（教育基本法第二条）。

### ● 目的意識を持ってソフトウェアを活用する

企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっている。本教科書においては、豊富な事例や丁寧な操作解説によって、ソフトウェアを活用する方法を習得できるようにしている。しかし、特定のソフトウェアの細かな操作方法を暗記するだけでは応用性がなく、学習者が将来に渡ってさまざまなソフトウェアを活用する際に、本科目で学習したことを活かせなくなってしまう。そこで、「なぜ」「なんのために」ソフトウェアを活用するのか、ということをもとに明確にしたうえで操作方法を説明するように配慮した。

### ● 具体的な場面設定をする

「なぜ」「なんのために」ソフトウェアを活用するのか、という点を意識するためには、具体的に企業活動において課題がある場面を設定し、その下で実践的・体験的に学習することが大切である。そこで、本教科書においては全編を通じて「レストランegg」という架空の飲食店、及びこの飲食店と取引を行っている企業の活動を基に著述している。「レストランegg」は家族経営の飲食店であり、これまでソフトウェアをほとんど活用せずに企業活動を行ってきたという設定である。この企業の抱える課題を表計算ソフトウェア、データベースソフトウェア、業務処理用ソフトウェアなどによって解決することを目指す、という場面設定の下で学習者は学習を進めていく。このような設定にすることで、ソフトウェア活用に関する資質・能力を効果的に身につけられることを目指している。

2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Introduction 企業活動におけるソフトウェア活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者と協働して企業活動を行ううえで、ソフトウェア活用が果たす役割を示している。(第三号)</li> <li>●レストランを例に、企業を維持するためにはどのような業務が必要か、そのうえで各々がどのような役割を担っているのかを示し、現実の企業活動に興味を持てるようにしている。(第二号)</li> <li>●本教科書の舞台として設定している「レストランegg」の登場人物が、男女で偏らないように配慮している。(第三号)</li> <li>●本教科書の各章で学習する内容を概観することで、学習の見通しを立て、学習意欲が湧くようにしている。(第一号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●vii 頁</li> <li>●viii – xii 頁</li> <li>●ix 頁</li> <li>●xii 頁</li> </ul>
第1章 表計算ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電子商取引などの、学習者にとって身近な事柄を例に挙げ、ロングテールについて興味を持って学習できるようにしている。(第一号)</li> <li>●食品ロスを題材にして表計算ソフトウェアの活用方法を示すことで、環境の保全のために知識・技術を活用できるようにしている。(第四号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●12頁</li> <li>●16頁</li> </ul>
第2章 データベースソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビッグデータの活用について具体的な事例を基に紹介することで、学習者がデータ活用について興味を持てるようにしている。(第一号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●59頁</li> </ul>
第3章 情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラミングを行う際に適切な変数名やオブジェクト名を設定する必要性について、他者と協力してシステム開発を行うような場合を想定して説明している。(第三号)</li> <li>●利用者のことを想定してユーザーフォームを作成することの必要性を示している。(第三号)</li> <li>●表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの特徴を具体的に対比することで、それぞれのソフトウェアの特徴を、興味を持って考えられるようにしている。(第一号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●132頁</li> <li>●155頁</li> <li>●172頁</li> </ul>

<p>第4章 業務処理用ソフトウェアの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務に関わる人々が円滑にコミュニケーションをとることの必要性と、それをソフトウェア活用によって実現する方法を著述し、他者との協力を促している。(第三号)</li> <li>●企業活動のうち給与や給与計算について触れ、それを支えるソフトウェアについて著述することで、働き方について考えられるようにしている。(第二号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●222頁</li> <li>●244頁－245頁</li> </ul>
<p>第5章 安全で効率的なソフトウェア活用環境の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インターネットが世界中のネットワークと接続されていることに触れ、国際的な視野の育成を図っている。(第五号)</li> <li>●情報セキュリティ教育について著述することで、適切な情報管理に関する学習者の関心を高めるようにしている。(第一号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●274頁</li> <li>●304頁</li> </ul>
<p>Ending 「ソフトウェア活用」で学んだことを活かして</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソフトウェアの活用により企業活動が促進されることを改めて著述することで、学習したことと職業の関連を意識させるようにしている。(第二号)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●306～309頁</li> </ul>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

口絵は学習者の興味を引き出すとともに、本文の補足的な内容になるよう配慮し、「実務に即して体系的・系統的に理解」できるようにした。

口絵①・②には、本教科書の事例としている「レストラン egg」のメニューを登載した。このメニューは、基本的には各章の内容と合致しているため、口絵を参照しながら具体的に学習を進めることができるようになっている。

口絵③では各章で学習する内容を提示し、学習の全体像を持てるようにした。

口絵④では SQL 構文のまとめを登載し、特に第2章を学習する際の補助となるようにした。

口絵⑤・⑥では表計算ソフトウェアにおけるプログラミングの関数や構文を整理し、特に第3章を学習する際の補助となるようにした。



# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-122	高等学校	商業科	ソフトウェア活用	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	190-910	ソフトウェア活用 新訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 本教科書においては、表計算ソフトウェア、データベースソフトウェア、業務処理用ソフトウェアなどのさまざまなソフトウェアの操作方法を解説している。しかし、操作方法自体を習得することを目的とするのではなく、ソフトウェアを活用して何を実現するのかということに焦点を当てることにより、「企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力」を育成することを目指した。
- これまでソフトウェアを活用してこなかった家族経営の飲食店である「レストランegg」、およびこの飲食店と取引を行ういくつかの企業を舞台とすることにより、「実務に即して」、具体的な場面の中でソフトウェアを活用し、問題解決をすることができるようにした。
- 具体的な企業活動を題材とした例題を提示したり、ストーリーとして企業の抱える問題を提示したりしたうえでソフトウェアの活用方法を紹介することにより、主体的、対話的で深い学びの実現を目指した。
- ソフトウェアの操作方法については、操作画面を画像として掲載することで、学習者が操作を追試しやすいように配慮している。
- 本文中の略語については、側注に原語を掲載するようにし、理解の促進を図っている。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領 の内容	該当箇所	配当 時数
Introduction 企業活動におけるソフトウェア活用	(1) 企業活動とソフトウェアの活用 ア ソフトウェアの重要性	vii-xii 頁	1
第1章 表計算ソフトウェアの活用	(2) 表計算ソフトウェアの活用	1-54 頁	18
第1節 情報の集計			

①グループ集計	ア オペレーション ズ・リサーチ		
②クロス集計			
第2節 情報の分析	イ 情報の集計と分析 ウ 手続の自動化		
①Z グラフ			
②パレート図と ABC 分析			
③ファンチャート			
第3節 シミュレーション			
①フィル機能を用いた確定モデルのシミュレーション			
②数式を用いた確定モデルのシミュレーション			
③乱数を使った確率モデルのシミュレーション			
④標本を用いた母集団の傾向の推測			
第4節 オペレーションズリサーチ			
①在庫管理			
②回帰分析			
③線形計画法			
④待ち行列			
⑤日程管理			
⑥ゲーム理論			
第5節 手続きの自動化			
①マクロの基礎			

第2章 データベースソフトウェアの活用	(3)データベースソフト	55-126頁	25
第1節 データベースの重要性	ウェアの活用		
①データベースの概要と特徴	ア データベースの重		
②データの整合性を保つ技術	要性		
③障害対策	イ データベースの設		
第2節 リレーショナルデータベースの概要と設計	計		
①リレーショナルデータベースの概要	ウ データベースの作		
②リレーショナルデータベースの設計	成と操作		
第3節 データベースの作成と操作	エ 手順の自動化		
①データベースの構成と要素			
②データベースの作成			
③データベースの操作			
④レポートの作成			
⑤SQL			
第4節 手続きの自動化			
①手続きの自動化			
第3章 情報システムの開発	(5)情報システムの開発	127-220頁	35
第1節 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	ア 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発		
①表計算ソフトウェアのプログラミング	イ データベースソフト		
②表計算ソフトウェアのユーザフォーム	ウェアによる情報シ		
③表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	ステムの開発		

第2節 データベースソフトウェアによる 情報システムの開発			
①データベースソフトウェアを利用した システム開発の準備			
②データベースソフトウェアを利用した システム開発			
第4章 業務処理用ソフトウェアの活用	(4)業務処理用ソフトウ	221-270頁	13
第1節 グループウェアの活用	ェアの活用		
①グループウェア	ア 仕入・販売管理ソ		
②グループウェアの導入	フトウェアの活用		
③グループウェアの活用	イ 給与計算ソフトウ		
第2節 給与計算ソフトウェアの活用	ェアの活用		
①給与計算ソフトウェア	ウ グループウェアの		
②給与計算ソフトウェアの画面構成	活用		
③給与計算ソフトウェアの導入と活用			
第3節 仕入・販売管理ソフトウェアの活用			
①仕入・販売管理ソフトウェア			
②仕入・販売管理ソフトウェアの画面構成			
③仕入・販売管理ソフトウェアの導入と活用			
第5章 安全で効率的なソフトウェア活用環 境の構築	(1)企業活動とソフト	271-305頁	12
第1節 安全で効率的なソフトウェア活用環 境	ウェアの活用		
①情報通信ネットワークとソフトウェア活用	イ 情報通信ネットワ ークの導入と運用		
	ウ 情報資産の保護		

②情報セキュリティとソフトウェア活用			
第2節 情報通信ネットワークの導入と運用			
①通信手段の変化			
②ネットワークの導入			
③ネットワークの運用			
④クラウドコンピューティング			
⑤ネットワークを安定して使用するために			
第3節 情報資産の保護			
①情報資産の適切な管理			
②情報セキュリティの3要素			
③情報資産のセキュリティ対策			
④情報セキュリティの脅威と対策			
Ending 「ソフトウェア活用」で学んだことを活かして	(1) 企業活動とソフトウェアの活用 ア ソフトウェアの重要性	306-309頁	1
		計	105